



Title	語文 第44輯 編集後記/投稿規定/奥付
Author(s)	
Citation	語文. 1984, 44
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68726
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編集後記

□投稿規定□

○直接購読者は投稿することができる。

○原稿の内容は国語・国文学、国語教育に関するものである。分量は四百字詰原稿用紙三十枚以内とする。

○原稿の送り先は「〒五六〇 豊中市待兼山町一大阪大学文学部国文学研究室内、語文編輯委員」宛。

○原稿の採否は編輯委員に一任のこと。

○採用しなかつた原稿は返送料が添附してあれば返送に応ずる。

○一括購読者が投稿する際には代表者から紹介せられたい。

◆雑誌の寄贈・交換・購読について

○雑誌の寄贈・交換・講読は「〒五六〇

豊中市待兼山町一大阪大学文学部国文学研究室宛に願いたい。

(振替 大阪 三一四三三一〇)
○六(四四)一一五一

(前田富蔵)

▽ 第四十四輯は例年のごとく国語学の論考を集めて刊行することとなつた。例年、刊行がやや遅れがちであったが、今回はいくらくか早めに刊行することが出来そうである。

▽ 今回は、国語学の大学院生の論考二篇と、今春卒業した学生の卒業論文をまとめ直した論考二篇とで一輯をなすこととなり、新進の論考ばかりとなつた。未熟のところもあるかもしれないが、御批正頂ければ幸いである。

▽ 森山卓郎氏の論考は、新しいテンス・アスペクト論を提出しようという意欲的なものである。李漢燮氏の論考は、韓国語に入った日本語を検討したもので、これまで研究されていなかつた分野に鍵を入れたものである。大石亨・森賀一恵両氏の論考は今春の卒業論文の要をまとめたもので、着実な国語語彙史研究の一例と言えよう。この他にも予定された論考があつたが、残念ながら締切に間に合わなかつた。次の機会に期待したい。

ISSN 0387-4494

¥ 700

発行所 〒578 東大阪市中新開389

文 進 堂 振替大阪112730番 電話0729(64)0226番

編輯者 〒560 大阪府豊中市待兼山町1

大阪大学文学部国文学研究室 代表 宮地 裕